

地方民紀行鉄

新京成電鉄株式会社



初富、二和向台、三咲、
五香、八柱、
きれいな駅名の由来を求めて
沿線を歩けば、
意外な発見が待っている。

千 葉県北西部を走る新京成電鉄。松戸駅から京成津田沼駅までの全24駅のうち、初富駅、二和向台駅、三咲駅、五香駅、八柱駅の五つの駅には数を表す漢字が名に付く。さて、名前の由来はどこにある？

名前の由来は

そもそも新京成電鉄の走る下総台地には数が付く地名が点在している。新京成電鉄の「鉄道体験学習デジタル教材」下総東葛飾の「まちたんけん」によると、江戸から明治に時代が変わる中、政府は仕事を無くした人々を下総台地に移住させ、農地として土地を開墾。開墾の順に、「漢数字＋縁起の良い漢字」で土地に名前を付けていったという。

その開墾の記念すべき第1号が、「一」を意味する「初」の字が付く、「初富」駅のある辺り。さらに初富駅から京成津田沼駅側に2駅分進むと、2番目になる「二和」向台駅。そのまた1駅先には3番目の「三咲」駅があり、この辺りが次々と開墾されていったことが分かる。とはいえ現在、三つの駅の周辺には商業施設や住宅が建ち並び、農地はほとんど見当たらない。二和向台駅から三咲駅まで、線路沿いを歩いてみても、住宅の間に小さな畑がチラホラ残るのみ。

もちろん一帯は言わずと知れた梨の名産地。線路沿いから離れて行けば、果樹園の広がる景色が見られるのかもしれないけれど、住宅が密集した駅周辺の景色を見る限り、明治はすでに遥か遠くといった印象。

初富、二和、三咲と追って来て、残すは

「五」の付く五香と「八」の付く八柱。開墾地を巡るように線路が敷かれたわけではないので、駅名にない数があっても不思議はない。不思議はないけど気にはなり、調べてみたら、意外なことが判明。

明治初期に行われた開墾地は全部で13カ所。このうち新京成電鉄の駅名にない地名は、「豊四季」「六実」「七実」「八街」「九美上」「十倉」「十倉一」「十倉二」「十倉三」。そう、8番目の開墾地は駅名にある「八柱」ではなく、「八街」。数の付く五つの駅名のうち、四つまでは開墾地の名前に由来するけれど、残り一つは違っただけ。

桜並木で考えるのは

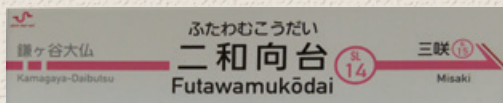
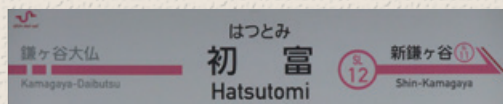
三咲駅から五香駅に向かうには、初富駅に戻って、さらに5駅先まで乗車する。平日の昼間でも車内は満席。ドア近くに立つて眺める車窓には、家々が連なる。北初富駅やくぬぎ山駅の辺りでは、ばあつと農地が広がるけれど、五香駅に着く頃には、再び住宅街の景色に戻る。電車が人の行き来を支えることで、かつて農地として開墾された土地は、住宅地としても適した土地になったようだ。

さて、開墾地の名前の駅は五香駅でお仕舞い。とはいえ、同じように数が名に付く八柱駅、素通りするのはすっきりしない。五香駅から常盤平駅、八柱駅の間には、桜並木が続いているというから、歩いて八柱駅まで向かう。

「桜並木」と言っても、季節は冬支度の真っ只中。先が見えないほど長く連なる桜の



桜の季節には、歩行者天国になり、「桜まつり」が行われる。



「初」富、「二」和向台、「三」咲、は近接している。

新京成電鉄

【しんけいせいでんてつ】

松戸駅から京成津田沼駅までを約44分で結ぶ。JRや私鉄への乗換駅も多く、通勤通学の足として、沿線住民に親しまれている。





常盤平駅と八柱駅の間は、電車がきれいに見える。



21世紀の森と広場の園に隣接して、博物館やホールもある。

列は、花の季節の華やかさを想像させるけれど、現実に見えるのは葉が落ち始めた木々の姿。物思いにはもってこいの静かな景色の中で、ついつい考えるのは「八柱」の名前の由来。8番目の開墾地でないのなら、何に由来する名前か。

ヒントを求めて桜並木を途中離脱。向かうは常盤平駅と八柱駅の間にある21世紀の森と広場。その隣には松戸市立博物館がある。

「八柱」の由来は

松戸市立博物館の常設展示では、人類誕生から昭和までの松戸一帯の歴史を紹介している。旧石器時代の人々の暮らしや交流範囲、「下総国」と呼ばれ始めた時代、馬の放牧地であり水戸街道の宿場町であった時代、そして明治に入り町が誕生していく……。

古代の下総国の戸籍や江戸時代の松戸宿のジオラマ、昭和に建てられた常盤平団地の再現など、地域の来歴が分かる展示は予想以上の見ごたえ。大満足で博物館を出たものの、肝心の「八柱」の名前の正式な由来は分からず。インターネット上で有力な、八つの村が合併して「八柱村」になったという説で、とりあえず納得しておく。

ともあれ、一つの地域の来歴をこれほどじっくり見ていくと、何だか親近感が沸いてきて、ジオラマにあった松戸宿周辺や江戸川沿いに足を伸ばしてみたくなる。ひとまず桜並木に舞い戻り、八柱駅まで歩き通す。数か名に付く駅を全制覇してから、松戸駅へ。

趣味ができました

東京へのアクセスも良い人気の街となっている松戸。松戸駅の周辺はビルが建ち並び、駅と江戸川の間にあった松戸宿も住宅街に様変わり。それでも、昔からある寺社仏閣はしっかり残っているようで、駅前の混雑を抜けて行くと、細い川に朱塗りの短い橋が架けられているのを発見。水戸徳川家の崇拜を受けたという松戸神社だ。

さっそくお参りをして、境内を散策。何気なく社務所に近寄ると、中には立派な神棚。社務所にも神棚を祭るのかと覗き込んでみると、ガラス戸が開けられ、巫女さんがにっこり。気付けば目の前にはお守りやおみくじがずらり。このシチュエーションで、「社務所にも神棚が?」とは聞きづらく、とつさに口をついたセリフは「御朱印いただけますか」。

最近、御朱印を集める人が増えているのは知っていたけれど、これまで御朱印をもらったことはない。「はい」と頷く巫女さんに、渡すべき御朱印帳も、当然ない。慌てて「御朱印帳も含めて、御朱印を」と言い繕って待つことしばし。四神が刺繍された真新しい御朱印帳を手渡される。

手書きの御朱印の不思議な魅力。初めて書いてもらった御朱印を前に、「次はどこにお参りに行こうかな」「沿線の寺社仏閣を巡って御朱印をもらうのも楽しいかも」などと考え始めている自分にびっくり。

駅名の由来を調べ歩いた最後に、新しい趣味を見つけました。



天気よければ対岸に東京スカイツリーが見えるとか。



松戸神社の創建は1626年。御朱印は神主さんの直筆。